



芸濃地域の中心部から安濃川に沿って主要地方道津芸濃大山田線を安濃ダム方面へと向かうと、旧道と合流する瀬野橋の上流側にはアーチ状のコンクリート橋が望めます。日ごろは周囲の木々に溶け込んでいるこの橋も、例年11月中旬ごろになると周囲の木々が紅葉し、両岸の荒々しい岩壁をアーチ状に結ぶこの橋の存在感が高まります。

忍田橋は、昭和11（1936）

年に架けられた延長約18m、幅4mのコンクリート造りの橋です。建設時には、橋を支える支保工をまず組み、型枠を設けてコンクリートを流す工法が取られました。当時はコンクリートも手練りでその量も半端なものではなく、かなりの重労働であったと思われます。安濃川上流には、このような橋がいくつも架けられ、林業が中心であったこの地では、多くの人や物資が行き交いました。しかし、林業の衰退と安濃ダムの建設により周辺の環境は大きく変化し、その当時に架けられた橋も災害やダム建設により水没するなど、現在ではこの忍田橋が残るのみです。昭和50年に津芸濃大山田線の整備に伴い瀬野橋が架けられるまでは、地域の動線としてなくてはならない



ものでした。

現在は、コンクリートの耐久性から車両の乗り入れができなくなりましたが、この時期、多くの人々がこの橋の上から紅葉の木々を透かす光と色彩の変化が生み出す溪谷美を楽しんでいます。

〔広報津〕平成22年11月1日号）